広報なか

2015 6

No.125

発行日　平成27年６月11日
発　行　那珂市
編　集　秘書広聴課広報グループ
〒311－0192
茨城県那珂市福田1819－5
E-mail　hisho-k@city.naka.lg.jp
ＵＲＬ　http://www.city.naka.lg.jp

目次 Contents

八重桜まつり2015 …2
児童手当現況届の提出を忘れずに！ …5
平成27年度那珂市特産品ブランド認証品募集！ …6
皆さんの意思を投票で …8
障がい者に対する差別について考えてみませんか？ …10
わがまちの環境を考える …12
平成27年春の褒章・叙勲、危険業務従事者叙勲受章 …14
水鳥㉑ …16
平成26年度下半期那珂市の財政事情 …20
１人に１つ。マイナンバー　Vol.3 …23
青少年相談員を紹介します　ほか …24
那珂市内放射線量の測定状況 …26
まちの話題 …28
Information …30
さわやかさん、表紙の裏側　ほか …34

水鳥 21

「菅谷村全図」を楽しむ（前編）

小学生や中学生の机の上には「地球儀」や「世界地図」「日本地図」が備えられていることが多いと思います。これらを眺めながら、早くから視野を広げて考えることができる環境をつくり出してあげようとの親心をうかがうことができます。

今回紹介するのは天保11年（1840）から同13年にかけて水戸藩が行った検地にともなって作成された村絵図「**菅谷村全図**」です。

菅谷村絵図　亘墨幽画　年不明　手書・手彩　100.24×59.5cm

検地は、土地所有者の明確化と課税の公平化を目指して行われるものです。

この村絵図は、菅谷の船橋梅様から市に寄贈されたもので、若林村（常陸大宮市）の絵師亘墨幽喜左衛門が描いたものです。

絵図は原則として藩用と村用の2冊が作成され、地元や周辺村々の絵師や庄屋などが描いています。

この「菅谷村全図」の作者亘墨幽は、水戸藩の絵師萩谷墨喬に学び写実的な画を得意としました。

墨幽は、菅谷村のほかに湊村（ひたちなか市）、小祝村・鷲子村（常陸大宮市）、馬頭村（那珂川町）などの絵図も描いています。

なお、先に市史編さん委員会から『那珂町の近世村絵図』が刊行され、そこでも紹介されています。

菅谷村の地勢

1　山　林

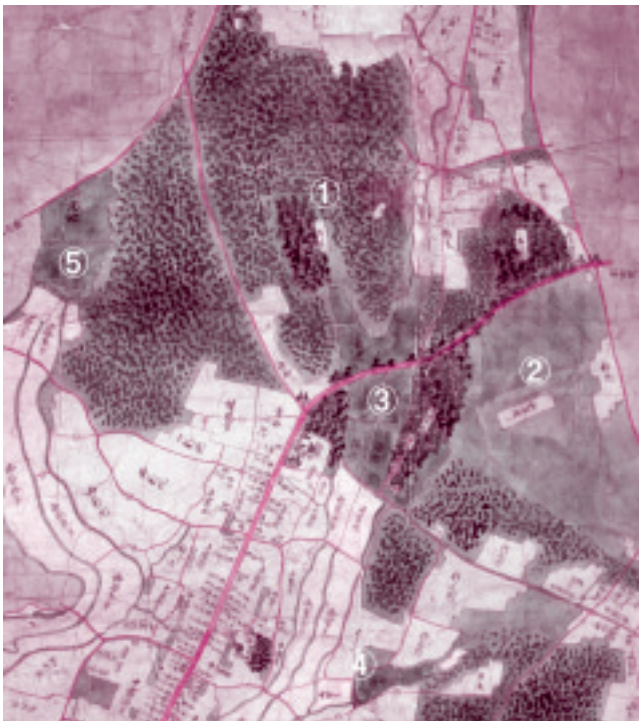
この天保検地の結果を示す「菅谷村検地帳」は現在のところまだ出ていませんので、当時の地質の等級（上田・中田・下田・下々田の4等級）や人口などのことはわかりませんが、江戸時代初め寛永12年（1635）の石高は菅谷村が1017石余（外に380石弱の新田）、福田村が639石余（外に1石6斗余の新田）でした。

現在の市域では戸村が3150石弱で最も多く、飯田村の1200石余が次いでいました。

文化4年（1807）に作成された『水府志料』には戸数217軒とあります。また大正11年（1922）の菅谷村（菅谷・福田）の人口は3441人、戸数は705軒でした。

「菅谷村全図」から見ると、村の北西部から鷺内（さぎうち）にかけては広く「①**御立林**」（藩有林）があります。

北部の杉村隣接地には「②杉原広し」との記載があり、村内全体にも林の塊（かたまり）が分布しています。



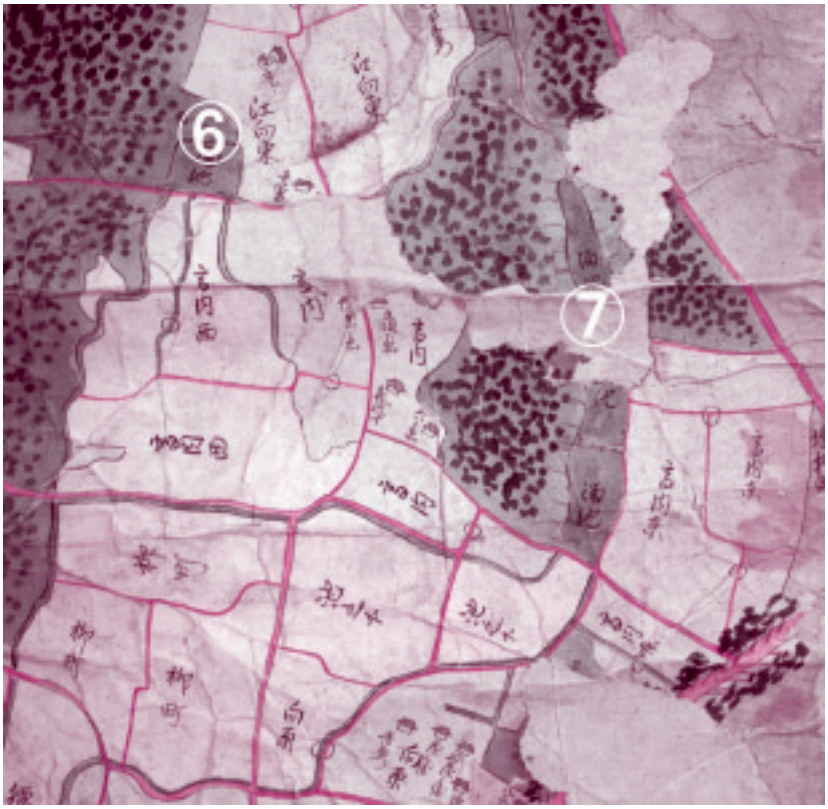
2　溜池水系

菅谷地域は平地林が多かっただけに湧水も豊かであった上、江戸時代に入ってからの新田開発に伴って造成された溜池も多いことが特色の一つです。③**両宮**（鹿島社と八幡社）の**溜池**（通称「宮の池」）が最大で、流域には東方の④**竹ノ内溜池**や正覚寺池と合流する水系が開発された水田が広がっています（両宮水系）。

福田村に隣接した⑤**溜池（一ノ関）**から南方に広がる水田には**大井川**（源流は戸崎洞前溜池、後台橋から下流は早戸川となる）が中央や周辺部を縫（ぬ）っています。

⑥**江向溜池**・⑦**高内溜池**両水系からの水田も広がっています。

最近の「高野館跡」（中宿東）や「軍司館跡」（仲の房東）などの発掘調査結果から見ると、菅谷村の水位はかなり高かったと思われます。



村の中央部

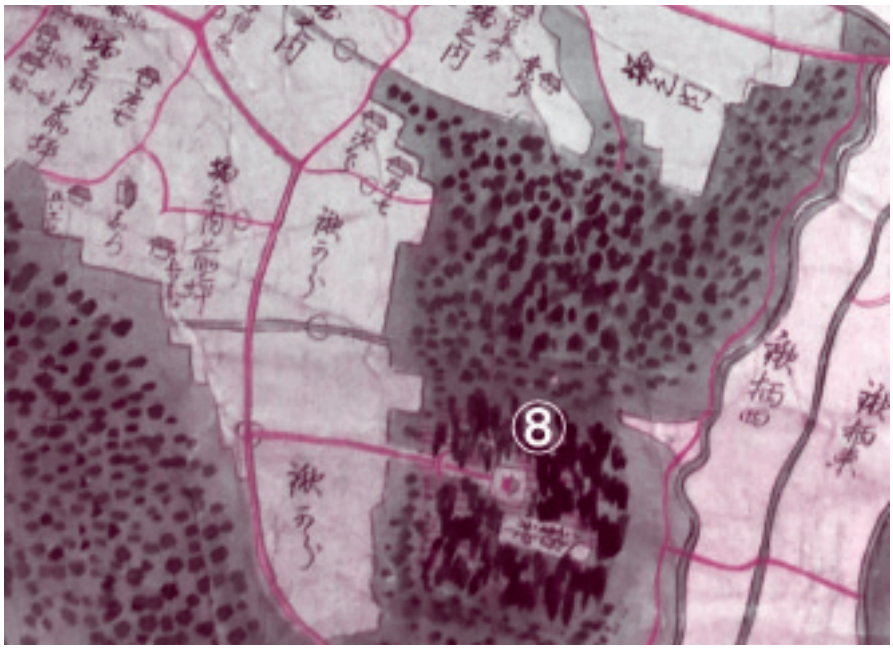
1 神社

棚倉街道上町・下町通りに挟まれた中央部を南から見ていきます。

字「堀の内」の東に字「鍬柄（くわから）」があり、その地域に広い鎮守の森（宮山）を持った「⑧**八竜神（はちりゅうじん）（社）**」が見えます。

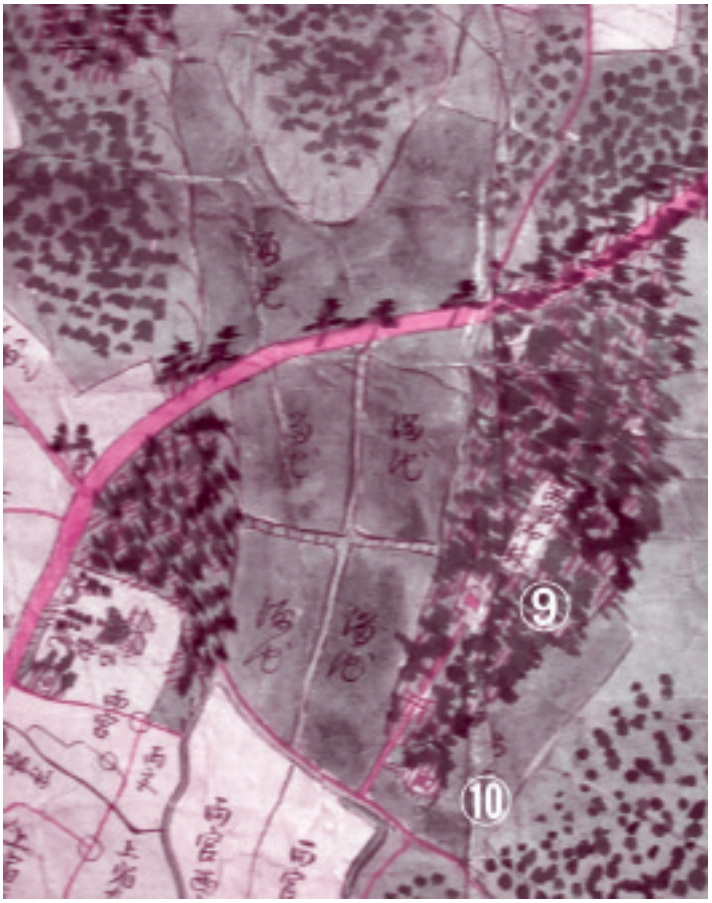
これは、水戸藩の2代藩主光圀（義公）の社寺改革により、上宿にあった両宮の一方である八幡社が廃止され、新たに八竜神社をここに祀ったものです。

これにより、上宿・中宿周辺住民は鹿島社を中心に信仰を高め、下宿周辺の住民は八竜神社を中心にまとまったようです。しかし、両者が互いに対立することが多く菅谷村は永く混迷していました。



これを見た9代藩主斉昭（烈公）は、強権を持って鹿島社・八竜神の双方を廃止し、安政4年（1857）新たに鹿島神宮から勧請して「**菅谷鹿島神社**」を現在地に建立、これをもって菅谷村住民の統一を図ったのが、今から158年前のことでした。

なお、八竜神は下宿の人々によって、現在も祀られています。



一方、絵図の北方に街道やあぜ道で区切られ6個に分かれた池（両宮池）が見えますが、そこに大きく突き出た「**両宮御林**」の森の中に見えるのが「⑨**鹿島社**」です。

その手前には池に囲まれた⑩**弁天社**も見えます。

池を渡って鹿島社までの長い参道、往時の姿が偲ばれます。

2 館跡

ほとんどの館跡は森として残っています。戦国時代が終わり徳川氏の時代になると館主一家は館から出されたといわれますから、その跡は植林などを含めて自然と山林などになっていったのでしょうか。

⑪**堀の内館**　大和田主水の屋敷とされ、現在はその中央を国道349号のバイパスが縦貫しています。

延命院はこの地域にありましたが、後に中宿に移っています。

この街道西側奥に堀か水路と思われる跡があり、磯崎館跡とも考えられますが定かではありません。

⑫**平野小六館**　字小六内にある比較的大きな森は、西之内の森と併せて大きな森の塊（かたまり）となっています。

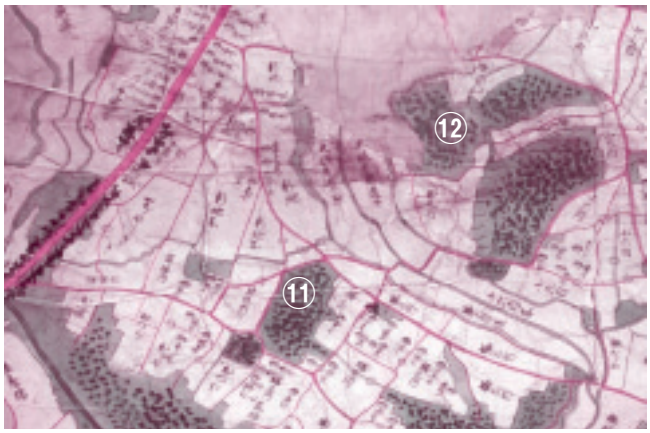
これは現在鹿島台団地となっている所です。

⑬**中宿東館**　常運寺脇（「ひだまり」東）にあった高野丹後の屋敷跡、宅地造成のために発掘調査がなされた際にはみごとな水堀（みずほり）が出現しました。

⑭**地天館**　飛田右角通高の屋敷、地天の森に堀や土塁が残っていますが、都市計画道路が縦貫するため平成26年度に発掘調査がなされました。古墳時代の住居跡もあり、「子持ち曲玉」が出土しています。

⑮**仲の房館**　地天館跡西方に正覚寺（浄土真宗）が見えます。

ここが館跡で関口左衛門尉の屋敷でした。



⑯**仲の房東**　地天館と仲の房館との間の森にあり軍司筑後守の住まいでした。

二重・三重の高い土塁と堀がめぐらされた大きな館跡でしたが、宅地造成のために平成25年度に発掘調査がなされ、ここも水堀であったことが判明しています。

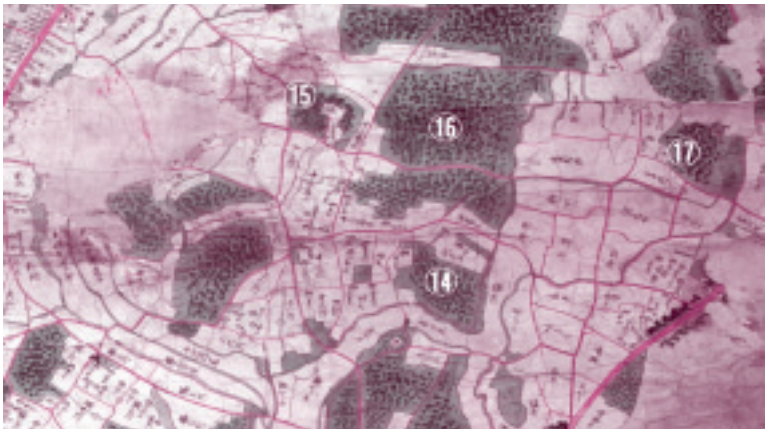
⑰**高内館**　ここは宮田掃部助の屋敷跡とされ、南側半分は開発されて水田化していますが、東・北部に残る深い堀跡はみごとです。

やがて、この一部も都市計画道路が縦貫する予定です。

⑱**竹ノ内館**　両宮水系の東側、両宮池と竹之内溜池に挟まれた森が藤咲丹後（一ノ関藤咲丹後の嫡子と推定される）の屋敷跡です。

今は開発されて跡形もありません。

（鷺内館跡は後編で記述）



まとめ

菅谷村にあった多くの館は、寄居の平野氏を中心としたもののようで、水戸城を支配していた江戸氏の家臣団であったようです。

これにより、この菅谷地域は北の額田氏と南の江戸氏との境界に当たり、かなり緊張した生活が続いていたと思われます。

しかし、江戸時代に入ってからは紛争もなく、地図に見られるようにかなり水田開発が進んで落ち着いた生活であったと思われます。

この地域には寄居・京塚・地天などに広く古墳群も存在します。

寄居平野館跡西方の石尊宮遺跡からは旧石器も出土していますので、周囲の水源を利用した古代人が早くから住んでいたこともわかります。

※皆様のお持ちの土地が館跡であったり、地下に埋蔵文化財（遺跡）が存在する場合があります。

その場合の土地開発には事前に教育委員会生涯学習課（歴史民俗資料館）への届け出が必要となります

問い合わせ
歴史民俗資料館
☎297・0080